

子育てチャンネル

東川町幼児センター教諭
小林利津子
RITHUKO KOBAYASHI



集団で生活をしている園でけんかが起こるのは日常茶飯事です。子どもたちにとって「けんか」は健全に育つための大事な栄養となります。

日常の生活の中で、「自分の思いを達成したために友達とぶつかる」「言葉でうまく伝えられず、ささいな行き違いから言い合いになる」「友達の動きや自分に対する対応が納得できずにぶつかる」「友達を押し叩いた」「おもちゃを貸してくれない取った」「仲間に入れてくれない」など、様々なことが子供のけんかの原因になります。

保護者の方から、「うちの子、友達と仲良く遊んでいますか」と聞かれることがあります。仲良くと言うのは一人ではなく友達とぶつかり合わずに遊んでほしいという願いが含まれていると思われがちですが、同年代の子供たちが集団で生活をしているとけんかが起こるのはあたりまえです。乳幼児期に他人とぶつかる経験をすることは必要なことなのです。

では、どうしてけんかになるのでしょうか？子供のけんかの特徴を年齢別に紹介します。

3歳児や3歳未満児は、「こうしたい」「これがほしい」など自分の欲望をそのまま出します。そのために人や物場所を取り合うけんかがよくみられます。周りの子供に興味を示す

ようになるのもこの時期の特徴ですが、かわり方がわからずに一方的なかわり方をしてトラブルになることが多いようです。おもちゃを取った。取られたのけんかはこの時期に多くあります。

4歳児は、自分の利害を中心に単純に物事をとらえる部分と、周りの状況や因果関係をとらえる部分で交差する時期です。ですから相手や出来事によっては抑制できる場合と抑制できない場合があるので対応が難しいのです。この時期に注意はかりしたり、ほおっておくと、5歳頃になっても自分で考えて判断しようとしなくなり、周りの大人は自分でもどうして良いか分からない気持ちを整理してあげたり、子供の気持ちを受け止めてあげながら、いろいろな考えや思いがあることを伝えてあげることが大切です。

5歳児になると、相手を意識しながら非難したり、納得したり、譲ったりするようになります。また理屈で考えられるようになり、けんかの理由がはっきりしてきます。納得できないことがけんかの原因になることが多くなります。正義感や道徳観がでてくるので、けんかも自分が有利ならいいのではなく、「そこが許せない」「それがいけない」などと、自分の思いや意見を言うようになります。また、けんかに男女差が出てきます。

男の子は「やった・やられた」という単純なけんかが多く比較的簡単に解決しますが、女の子は「けんかは悪いこと」と思うところがあり我慢することが多く、友達間でしこりや不満が残ります。ことによっては友達の物を隠したり相手を避けたりすることがあります。

自分の思いをストレートにぶつける3歳児、自分を確かめたくて誇示したがる4歳児、納得できないことに反発する5歳児と年齢によってけんかの傾向は多少違います。

けんかを通して子供たちは、自分の思い通りにならないこと、我慢し

「けんか」は心の成長

なければならぬこと、譲らなければならぬことなどを経験します。いつも「うれしい、楽しい、おもしろい」というプラス面の感情体験ばかりだけではなく、「かなしい、くやし、はらがたつ」といったマイナスの感情体験をすることは幼児にとつて大切なことなのです。けんかは、友達の思いに気づき、相手を思いやる気持ちや育てる基礎を培います。けんかの体験を重ねながら、子供は自分が自分とは違う他人の存在を意識し、してはいけないこと、しなければならぬことを体得していくのです。

